

豚熱 93、94、95、96、97、98、99 例目調査報告・疫学検討結果

新潟県で確認された 93 例目、愛媛県で確認された 94 例目、群馬県で確認された 95・96・98・99 例目及び千葉県で確認された 97 例目の豚熱発生事例について、農場へのウイルス侵入要因等を検討した。

【93 例目】

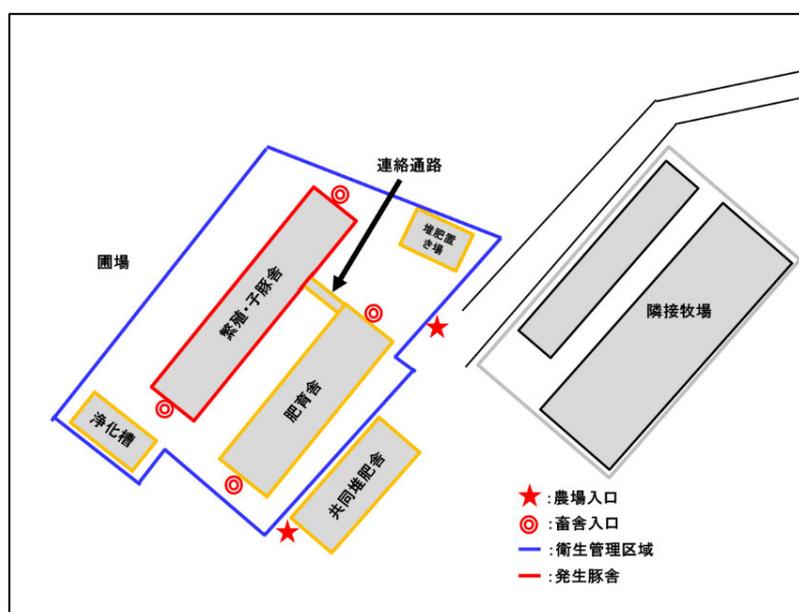
(1) 農場概要

所在地：新潟県新発田市

飼養状況：一貫農場（飼養頭数：505 頭）

発生日：令和 6 年 8 月 14 日

(2) 農場見取図



(3) 経緯

令和元年

12月20日 新潟県を豚熱ワクチン接種推奨地域に設定。

当該農場では、30日齢前後で豚熱ワクチンを接種していた。

令和 6 年

8月7日 繁殖・子豚舎の北東側分娩房哺乳豚 2 頭の死亡が確認されたため、農場主が家畜保健衛生所（家保）に連絡。

8月8日に予定していた豚熱ワクチン接種を 1 日前倒しし、家保職員が農場に来場。家保職員は、豚熱の特定症状は認められず、同居豚にも異状がなく、またダクトが故障により送風できなかったため暑熱の影響を疑い、経過観察と異常時の通報を指示。

通常は、乳のみ競争に負けて哺乳できなかった新生豚が死亡する程度で、子豚が死亡することはほとんどない。春先に寒暖差で死亡す

る個体は散見されるが、夏場に死亡する個体は珍しいため何らかの異常が生じていることを疑った。

- 8月9日 分娩房10において、8月10日に1頭、8月12日に2頭が死亡。また、分娩房10の向かいの分娩房2で、8月9日に2頭、8月11日に2頭、8月12日に2頭死亡。
- 8月13日 分娩房2の隣の分娩房1で哺乳豚1頭が死亡したため、農場主から家所に通報。午前中に家保職員が農場立入りをしたものの、チアノーゼ、パイルアップ等症状を認めず、一旦帰庁。その後、死亡頭数の推移を考慮し、病性鑑定実施を決定。
- 8月14日 農研機構動物衛生研究部門での検査の結果、豚熱の患畜と判定。
- 8月15日 現地調査において、同居豚含め、体格、毛艶の良い個体が多く、チアノーゼやパイルアップは確認されなかった。

(4) 死亡頭数の推移

豚房番号	1号	2号	3号	4号	5号	6号	7号	8号	9号	10号	11号	12号	13号	14号	15号	16号	
死亡推移	7月17日																
	7月18日																
	7月19日																
	7月20日																
	7月21日																
	7月22日																
	7月23日																
	7月24日																
	7月25日																
	7月26日																
	7月27日																
	7月28日																
	7月29日																
	7月30日																
	7月31日																
	8月1日																
	8月2日																
	8月3日																
	8月4日																
	8月5日																
8月6日																	
8月7日										2							
8月8日																	
8月9日		2															
8月10日										1							
8月11日		2															
8月12日		2								2							
8月13日	1																
合計	1	6	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	
処分時の状況																	
出生日	7月2日	7月9日								7月6日							
離乳舎への導入日																	
離乳舎への導入時頭数																	
ワクチン接種日	8月7日	8月7日								8月7日							

(5) 検査結果

病性鑑定（令和6年8月13日採材）

同居豚		PCR検査 (陽性数/検査数)	陽性率	ELISA検査 (陽性数/検査数)	陽性率	WBC10,000個/μl未満 (陽性数/検査数)	割合
①	繁殖・分娩舎 (生年月日不明)	12 / 13	92.3%	3 / 10	30.0%	4 / 10	40.0%

殺処分前検査（令和6年8月14日採材）

同居豚		PCR検査 (陽性数/検査数)	陽性率	ELISA検査 (陽性数/検査数)	陽性率	WBC10,000個/μl未満 (陽性数/検査数)	割合
①	繁殖・分娩舎・子豚舎 (生年月日不明)	3 / 20	15.0%	16 / 20	80.0%	4 / 20	20.0%
②	肥育舎 (生年月日不明)	0 / 10	0.0%	2 / 10	20.0%	1 / 10	10.0%

環境材料	5 / 52	9.6%	※ 繁殖・分娩舎で陽性
------	--------	------	-------------

環境材料で陽性が確認された豚舎での採材材料（下線は陽性となった材料）

①	繁殖・分娩舎・子豚舎 (生年月日不明)	長靴、 <u>入口床</u> 、 <u>通路床</u> 、窓枠上部、窓枠下部、豚房搾、長靴、ファン、分娩舎用長靴、分娩舎通路床、分娩舎ファン、分娩舎豚房柵×3、分娩舎窓枠×2、分娩舎井戸水
---	------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------

ワクチン接種・未接種ごとの検査結果（病性鑑定を含む）

	PCR検査 (陽性数/検査数)	陽性率	ELISA検査 (陽性数/検査数)	陽性率	WBC10,000個/μl未満 (陽性数/検査数)	割合
接種	15 / 43	34.9%	21 / 40	52.5%	9 / 40	22.5%
非接種						

【94 例目】

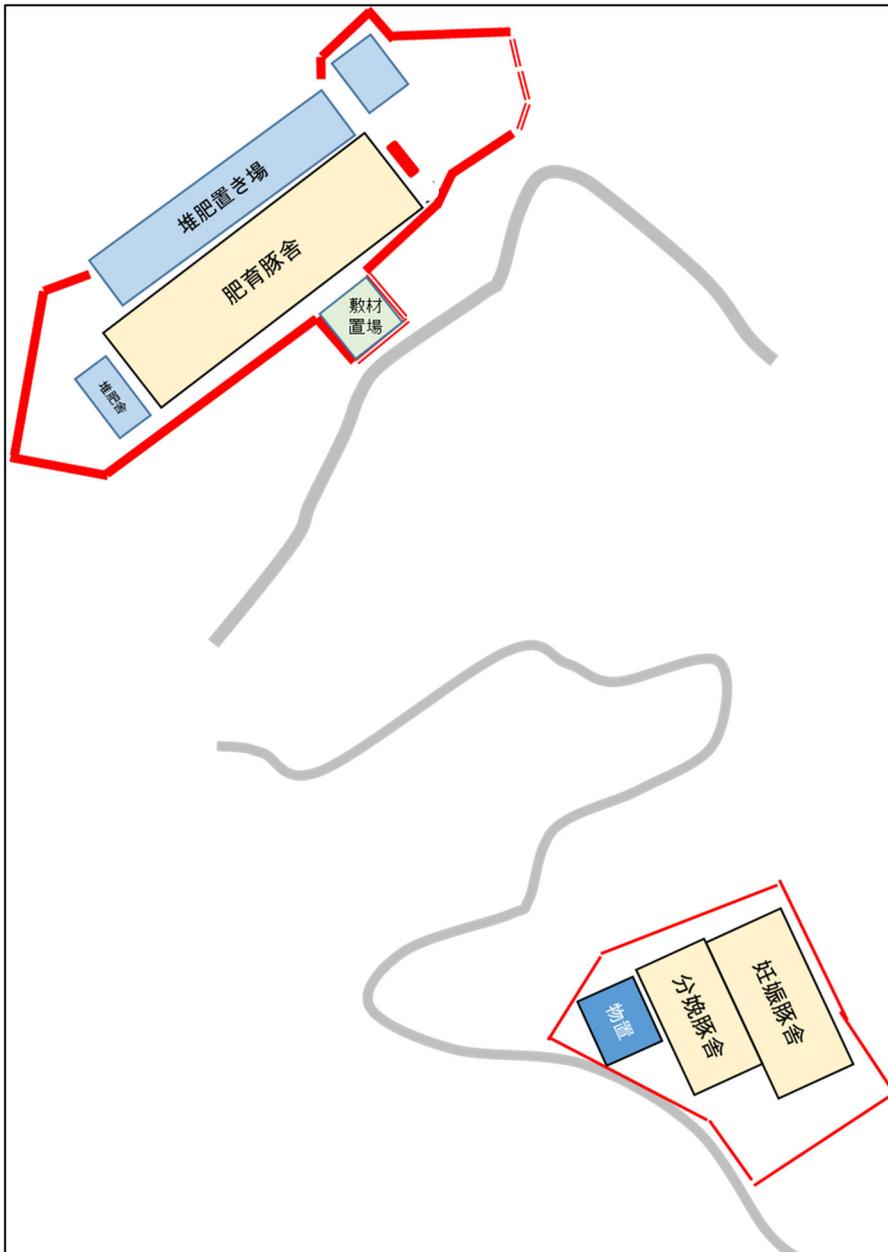
(1) 農場概要

所在地：愛媛県四国中央市

飼養状況：一貫農場（飼養頭数：61 頭）

発生日：令和6年11月1日

(2) 農場見取図



(3) 経緯

令和3年

8月6日 愛媛県を豚熱ワクチン接種推奨地域に設定。
当該農場では、40~50日齢前後で豚熱ワクチンを接種していた。

令和4年

9月 PRRS 抗体検査を実施し、全検体（20 検体）陰性。

令和6年

10月下旬 離乳群（発生豚）及び肥育豚舎の肥育後期の群で食欲不振見られており、これらの群で1~2 頭ずつ死亡が見られる状況が続いていたとのこと。通常は日齢の高い肥育豚での死亡はあまり見られない。

10月31日 肥育舎の1 豚房で離乳豚（50 日齢前後）5 頭が死亡したため、家保に通報。

死亡豚にはチアノーゼを確認したほか、当該群の残りの子豚が集まっている様子が確認された。分娩豚舎には、同腹の子豚が10 日齢くらいまでに立て続けに原因不明で死亡し、3 頭（40 日齢程度の離乳豚）が残っていたが、異状は認めなかった。

11月1日 農研機構動物衛生研究部門での検査の結果、豚熱の患畜と判定。

(4) 死亡頭数の推移

豚房番号	肥育舎5	肥育舎6	肥育舎7	肥育舎10	肥育舎12	肥育舎15	肥育舎16	肥育舎18	分娩舎	繁殖舎
死亡推移										
10月5日										
10月6日										
10月7日										
10月8日										
10月9日										
10月10日										
10月11日										
10月12日										
10月13日										
10月14日										
10月15日										
10月16日										
10月17日										
10月18日										
10月19日										
10月20日										
10月21日										
10月22日										
10月23日										
10月24日										
10月25日		1								
10月26日		1								
10月27日	1							1		
10月28日								1		
10月29日	2									
10月30日		1								
10月31日	2	3								
11月1日		1								
合計	5	7	0	0	0	0	0	2	0	0
処分時の状況	パイルアップ チアノーゼ 遊泳運動 元気消失	パイルアップ 元気消失	削瘦 元気消失	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	チアノーゼ 元気消失	異常なし	異常なし
出生日	2024/9/12	2024/8/28	2024/5/5	2024/4/25	2024/6/4	2024/4/25	2024/4/25	2024/5/5	2024/9/17	2021/7/8 ~2024/3/8
離乳舎への導入日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
離乳舎への導入時頭数	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-
ワクチン接種日	未	未	2024/6/13	2024/6/13	2024/8/21	2024/6/13	2024/6/13	2024/6/13	未	2024/5/16

(5) 検査結果

病性鑑定（令和6年10月31日採材）			ワクチン未接種		ワクチン歴不明	
同居豚	PCR検査 (陽性数/検査数)	陽性率	ELISA検査 (陽性数/検査数)	陽性率	WBC10,000個/μl未満 (陽性数/検査数)	割合
② 肥育舎 (40-50日齢)	3 / 3	100.0%	0 / 3	0.0%	2 / 2	100.0%
② 肥育舎 (150日齢、接種歴あり)	2 / 2	100.0%	2 / 2	100.0%	1 / 1	100.0%
② 肥育舎 (日齢、接種歴不明)	2 / 2	100.0%	- / -	-	- / -	-

殺処分前検査（令和6年11月1日採材）			ワクチン未接種		ワクチン歴不明	
同居豚	PCR検査 (陽性数/検査数)	陽性率	ELISA検査 (陽性数/検査数)	陽性率	WBC10,000個/μl未満 (陽性数/検査数)	割合
① 繁殖舎 (45日齢)	0 / 3	0.0%	1 / 3	33.3%	0 / 3	0.0%
② 肥育舎 (50日齢、65日齢)	10 / 20	50.0%	6 / 20	30.0%	15 / 18	83.3%
③ 肥育舎 (150-190日齢、接種後72-141日)	2 / 16	12.5%	14 / 16	87.5%	1 / 9	11.1%

環境材料	0 / 100	0.0%
------	---------	------

ワクチン接種・未接種ごとの検査結果（病性鑑定を含む）			ワクチン未接種		ワクチン歴不明	
	PCR検査 (陽性数/検査数)	陽性率	ELISA検査 (陽性数/検査数)	陽性率	WBC10,000個/μl未満 (陽性数/検査数)	割合
接種	4 / 18	22.2%	16 / 18	88.9%	2 / 10	20.0%
未接種	13 / 26	50.0%	7 / 26	26.9%	17 / 23	73.9%
不明	2 / 2	100.0%	- / -	-	- / -	-

【95 例目】

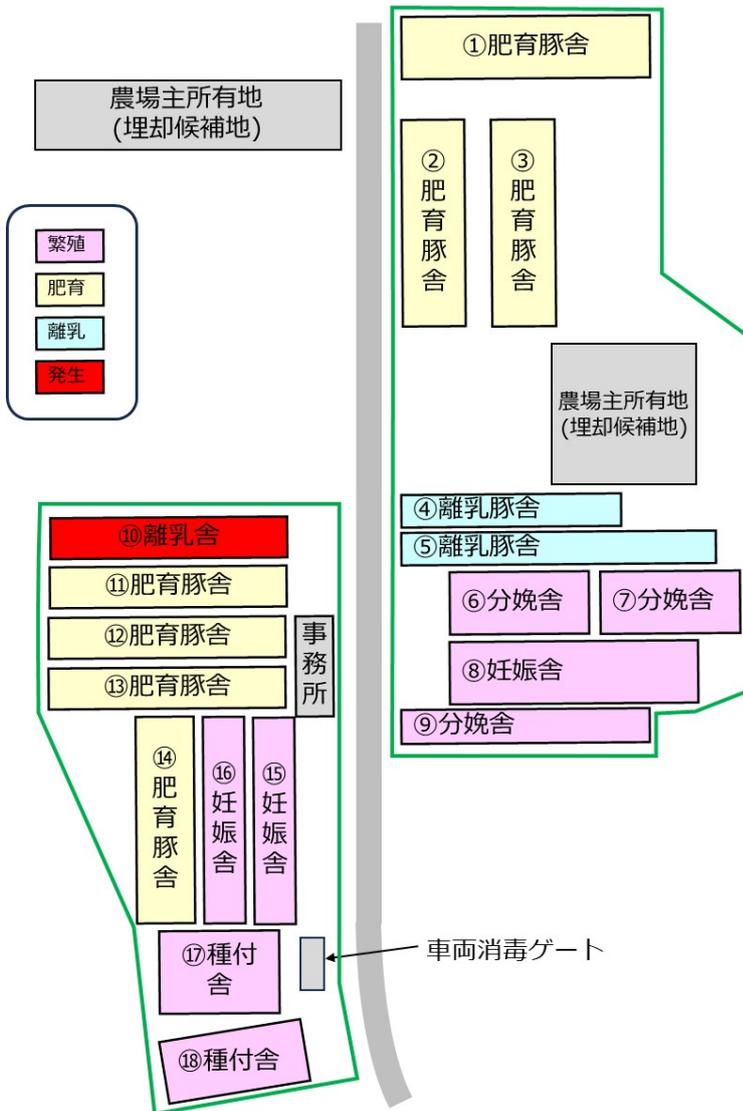
(1) 農場概要

所在地：群馬県前橋市

飼養状況：一貫農場（飼養頭数：約 5,030 頭）

発生日：令和 7 年 1 月 23 日

(2) 発生農場見取図



(3) 経緯

令和元年

10月15日 群馬県を豚熱ワクチン接種推奨地域に設定。

当該農場では、40日齢で豚熱ワクチンを接種していた。

令和 7 年

1 月 9 日 発症豚を 6 号分娩舎から 10 号離乳舎へ移動。離乳舎への移動前から下痢が多い印象あり。

- 1月17日 下痢、削瘦が増加したためコクシジウムの感染を疑い、サルファ剤を投与。
- 1月21日 40日齢の離乳豚に豚熱ワクチンを接種。下痢症状の改善は見られず、1頭死亡し、削瘦の見られた11頭を淘汰。淘汰豚の体表にはチアノーゼが見られた。急速な削瘦を不審に思い、農場主が解剖を実施。
- 1月22日 管理獣医師が所属する養豚コンサルタント会社の代表（獣医師）に解剖画像を送付。鼠経リンパ節・腸間膜リンパ節の出血と腫脹、腸管漿膜面の出血、脾臓のわずかな出血性梗塞を認めたため豚熱を疑い、管理獣医師が所属する養豚コンサルタント会社の代表（獣医師）から家保に通報。
家保獣医師が立入り後にパイルアップを確認。
- 1月23日 農研機構動物衛生研究部門での検査の結果、豚熱の患畜と判定。
- 1月24日 現地調査時、発生豚舎の離乳豚は殺処分済みであったが、発症豚がいた分娩舎を含め、このほかの豚について異状は認められなかった。

(4) 死亡頭数の推移

豚房番号	R1-A	R1-B	R1-C	R2-A	R2-B	R2-C	R3-A	R3-B	R3-C	R4-A	R4-B	R4-C	R5-A	R5-B	R5-C
12月26日															
12月27日															
12月28日															
12月29日															
12月30日															
12月31日															
1月1日															
1月2日					1										
1月3日	2	2		1				1			1	1			
1月4日															
1月5日															
1月6日									1						
1月7日															
1月8日															
1月9日					1										
1月10日									1						
1月11日															
1月12日															
1月13日															
1月14日												1			
1月15日											1				
1月16日															
1月17日															
1月18日															
1月19日															
1月20日															
1月21日												1	8	2	
1月22日															
合計	2	2	0	1	2	0	0	1	2	0	2	3	8	2	0
処分時の状況	淘汰	淘汰		淘汰	1/9 死亡			1/3 淘汰	1/10 淘汰		1/3 淘汰 1/15 死亡	1/3, 14 淘汰 1/21 削 瘦、死亡	削瘦、下痢 のため淘汰	削瘦、下痢 のため淘汰	
出生日										12月12日	12月12日	12月12日	12月12日	12月12日	12月12日
離乳舎への導入日										1月9日	1月9日	1月9日	1月9日	1月9日	1月9日
離乳舎への導入時頭数															
ワクチン接種日	12月10日	12月10日	12月10日	12月10日	1月21日	1月21日	1月21日								

(5) 検査結果

病性鑑定（令和7年1月22日採材）

同居豚		PCR検査 (陽性数/検査数)	陽性率	ELISA検査 (陽性数/検査数)	陽性率	WBC10,000個/ μ l未満 (陽性数/検査数)	割合
⑩	離乳舎 (R1~R5) (41日齢、接種後1日)	6 / 11	54.5%	2 / 11	18.2%	2 / 11	18.2%

殺処分前検査（令和7年1月23日採材）

同居豚		PCR検査 (陽性数/検査数)	陽性率	ELISA検査 (陽性数/検査数)	陽性率	WBC10,000個/ μ l未満 (陽性数/検査数)	割合
①	肥育舎 (N1) (146~152日齢、接種後107日)	1 / 10	10.0%	9 / 10	90.0%	0 / 10	0.0%
②	肥育舎 (N3) (102~130日齢、接種後65~86日)	0 / 10	0.0%	5 / 10	50.0%	0 / 10	0.0%
③	肥育舎 (N2) (124~130日齢、接種後86日)	0 / 10	0.0%	5 / 10	50.0%	0 / 10	0.0%
④	離乳舎 (コンテナA) (61~66日齢、接種後38~43日)	0 / 10	0.0%	2 / 10	20.0%	0 / 10	0.0%
⑤	離乳舎 (コンテナB・C) (36~46日齢、接種後2日)	0 / 10	0.0%	3 / 10	30.0%	0 / 10	0.0%
⑥⑦	分娩舎 (分娩1・3) (産歴1~4、接種日不明)	0 / 10	0.0%	8 / 10	80.0%	0 / 10	0.0%
⑧	ストール舎 (ストール1) (産歴0~5、接種日不明)	0 / 10	0.0%	7 / 10	70.0%	0 / 10	0.0%
⑨	分娩舎 (分娩2) (産歴1~7、接種日不明)	0 / 10	0.0%	6 / 10	60.0%	1 / 10	10.0%
⑩	離乳舎 (R4・5) (42日齢、接種後2日)	29 / 60	48.3%	42 / 60	70.0%	4 / 60	6.7%
⑪	肥育舎 (N4) (187~193日齢、接種後149日)	0 / 10	0.0%	5 / 10	50.0%	0 / 10	0.0%
⑫	肥育舎 (N5) (165~173日齢、接種後126日)	0 / 10	0.0%	3 / 10	30.0%	1 / 10	10.0%
⑬	肥育舎 (N6) (165~173日齢、接種後126日)	2 / 10	20.0%	5 / 10	50.0%	0 / 9	0.0%
⑭	肥育舎 (N7) (146~173日齢、接種後107~126日)	0 / 10	0.0%	5 / 10	50.0%	0 / 10	0.0%
⑮⑯	ストール舎 (ストール2・3)	0 / 10	0.0%	7 / 10	70.0%	0 / 10	0.0%
⑰	種付舎 (A11) (産歴0~3、接種日不明)	0 / 10	0.0%	9 / 10	90.0%	0 / 10	0.0%
⑱	種付舎 (A12) (産歴1~5、接種日不)	0 / 10	0.0%	6 / 10	60.0%	0 / 10	0.0%

環境材料	4 / 130	3.1%	※⑨で陽性
------	---------	------	-------

環境材料で陽性が確認された豚舎での採材材料（下線は陽性となった材料）

⑩	離乳舎 (R4・5)	R5飼槽、R5換気扇、R5豚房床、R5ドアノブ、R5水ニップル R4飼槽、 <u>R4換気扇</u> 、R4豚房床、R4ドアノブ、R4水ニップル
---	------------	-----------------------------------------------------------------------------

ワクチン接種・未接種ごとの検査結果（病性鑑定を含む）

	PCR検査 (陽性数/検査数)	陽性率	ELISA検査 (陽性数/検査数)	陽性率	WBC10,000個/ μ l未満 (陽性数/検査数)	割合
接種	38 / 221	17.2%	129 / 221	58.4%	8 / 220	3.6%
未接種						

【96 例目】

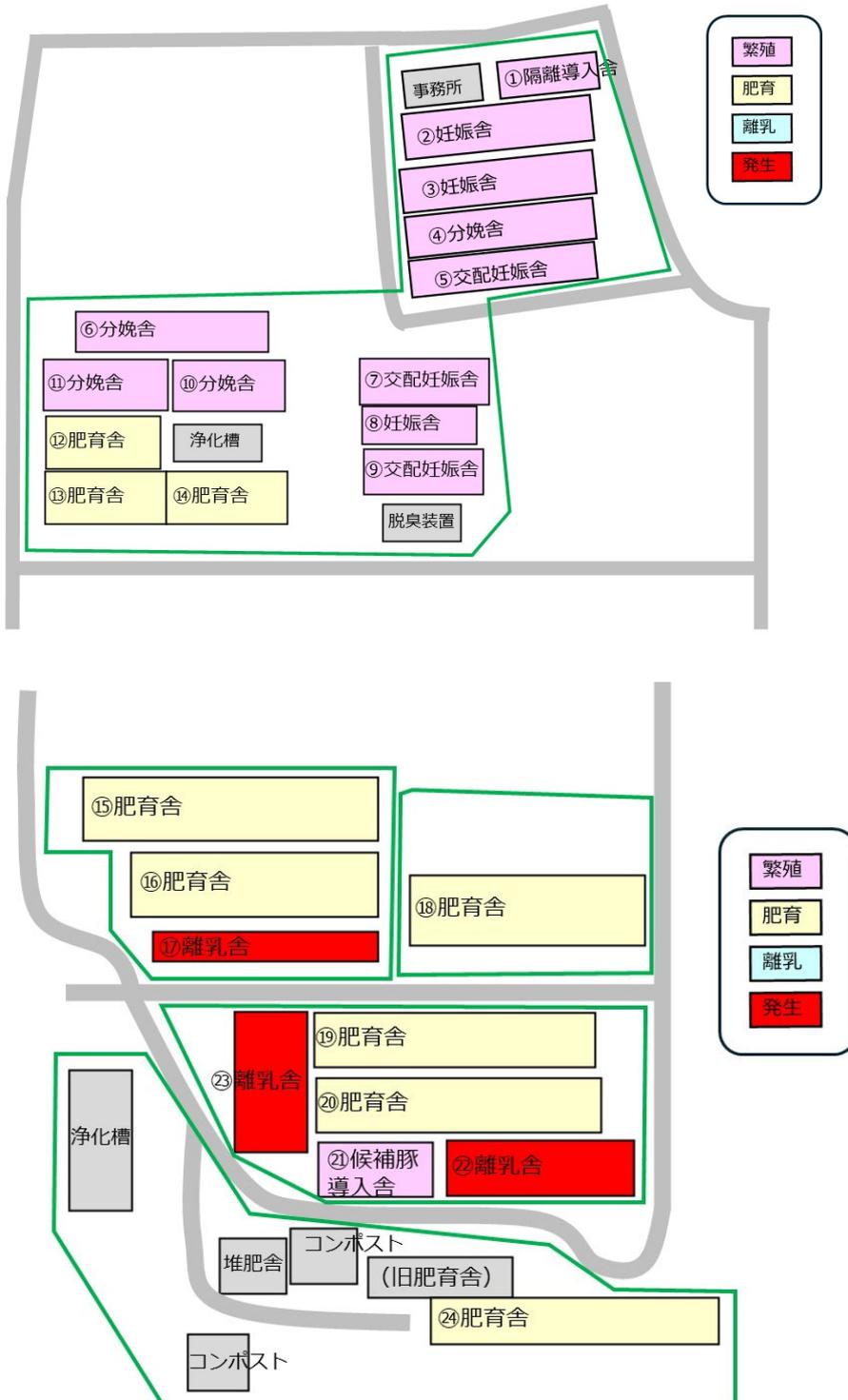
(1) 農場概要

所在地：群馬県前橋市

飼養状況：一貫農場（飼養頭数：約 8,700 頭）

発生日：令和 7 年 2 月 21 日

(2) 発生農場見取図



(3) 経緯

令和元年

10月15日 群馬県を豚熱ワクチン接種推奨地域に設定。
当該農場では、以前は35～40日齢で豚熱ワクチンを接種していたが、令和5年（豚熱ワクチン第2世代）以降は21～23日齢（離乳日）に豚熱ワクチンを接種していた。

令和6年

10月頃 農場内で PRRS（豚繁殖・呼吸障害症候群）が発生し、母豚での流産や子豚の事故死、下痢等の症状が12月まで見られていた。

令和7年

1月頃 PRRS の症状が落ち着き、豚群に異状なし。

2月上旬 ⑥分娩舎から②離乳舎へ移動していた30日齢前後の離乳豚で下痢やPRRS 症状が出始め、死亡豚が散見されるように。

2月13日 管理獣医師が来所。生菌剤と豚熱ワクチンを渡し、経過観察を指示。生菌剤の効果はみられず、2月3日に導入した②離乳舎でも下痢やPRRS 症状を確認。

2月18日 ②離乳舎で死亡数が急増。
離乳舎3棟全ての離乳豚でパイルアップを確認。

2月19日 離乳豚の死亡数がさらに急増。飼養管理者が管理獣医師に連絡。

2月20日 管理獣医師が来所し、⑥分娩舎で21日齢の哺乳豚への豚熱ワクチン接種を行っていた際、哺乳豚にチアノーゼや神経症状が見られた。豚熱ワクチン接種後の哺乳豚を③離乳舎に移動したところ、パイルアップが見られたため通報。
家保の立ち入り時、離乳舎3棟全てで異常豚を確認したが、特に②離乳舎の部屋番号3、4でパイルアップ、活力低下、チアノーゼ、軟便、下痢等の症状が強く確認された。

2月21日 農研機構動物衛生研究部門での検査の結果、豚熱の患畜と判定。

2月22日 現地調査時、②離乳舎のうち、部屋番号2（1/23導入：51日齢前後）では比較的生存豚は活力良好であったが、部屋番号3（1/30導入：44日齢前後）では死亡豚を確認。部屋番号4（2/3導入：40日齢前後）では豚房の隅でパイルアップや活力低下を呈する豚を確認。日齢が若い豚ほど活力が低下している様子であった。なお、明瞭な下痢跡や尻汚れは確認されなかった。
その他のストール舎、分娩舎、肥育舎では豚熱を疑う症状は特段認めなかった。

(4) 死亡頭数の推移

	④分娩舎 (古い分娩舎)	⑥分娩舎1号 (ウインドレス)	⑥分娩舎2号 (ウインドレス)	⑥分娩舎3号 (ウインドレス)	⑥分娩舎4号 (ウインドレス)	⑩分娩舎 (開放)	⑪分娩舎 (新分娩舎)	⑰離乳舎 (ビギー離乳舎)	⑱離乳舎 (新しい離乳舎)	⑲離乳舎 (古い離乳舎)
2月1日	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0
2月2日	6	0	0	0	0	0	0	1	1	1
2月3日	2	0	1	0	0	0	0	2	0	1
2月4日	0	0	0	1	0	0	1	3	0	1
2月5日	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3
2月6日	2	0	0	1	0	0	0	1	0	3
2月7日	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0
2月8日	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
2月9日	0	0	0	1	1	0	0	5	7	5
2月10日	1	0	2	0	0	0	3	3	5	4
2月11日	0	1	1	0	0	0	1	0	5	2
2月12日	0	1	1	0	2	0	0	1	6	4
2月13日	0	1	1	0	1	0	4	1	12	1
2月14日	4	3	0	0	1	0	0	0	11	0
2月15日	0	5	0	0	6	0	1	0	5	0
2月16日	3	11	0	0	6	2	1	6	5	3
2月17日	0	8	0	0	6	2	0	6	28	0
2月18日	0	17	0	0	0	3	1	11	0	6
2月19日	1	27	0	0	0	0	1	24	49	5
2月20日	3	11	0	0	0	6	1	21	49	10
合計	24	86	7	4	24	14	14	85	183	49

	⑫肥育舎 (肥育4号舎)	⑬肥育舎 (肥育5号舎)	⑮肥育舎 (肥育11号舎)	⑯肥育舎 (肥育6号舎)	⑰肥育舎 (肥育12号舎)	⑱肥育舎 (肥育9号舎)	⑳肥育舎 (肥育10号舎)	㉑肥育舎 (肥育8号舎)	計
2月1日	0	0	0	0	0	0	0	0	2
2月2日	1	1	0	0	4	1	0	1	17
2月3日	6	2	1	0	0	1	2	3	21
2月4日	0	0	0	0	0	0	0	1	7
2月5日	1	0	0	1	2	0	0	0	8
2月6日	0	2	2	1	0	0	0	0	12
2月7日	0	0	0	0	0	0	0	0	3
2月8日	0	0	0	0	0	0	0	0	1
2月9日	1	2	5	0	0	0	3	4	34
2月10日	0	0	0	0	1	0	0	0	19
2月11日	2	1	0	0	3	0	0	0	16
2月12日	0	0	2	0	1	1	0	0	19
2月13日	0	0	0	1	1	0	1	0	24
2月14日	0	0	0	0	0	0	0	0	19
2月15日	0	0	0	0	0	0	0	0	17
2月16日	2	2	2	2	2	6	1	2	56
2月17日	1	0	0	0	0	0	3	1	55
2月18日	1	2	1	0	0	0	2	0	44
2月19日	0	2	4	0	0	0	0	0	113
2月20日	0	0	0	0	1	3	0	0	105
合計	15	14	17	5	15	12	12	12	592

(5) 検査結果

病性鑑定（令和7年2月20日採材）

同居豚		PCR検査 (陽性数/検査数)	陽性率	ELISA検査 (陽性数/検査数)	陽性率	WBC10,000個/μl未満 (陽性数/検査数)	割合
①①	離乳舎 (30-34日齢、接種後7-12日)	5 / 5	100.0%	3 / 5	60.0%	0 / 9	0.0%
②②	離乳舎 (37-43日齢、接種後17-21日)	4 / 5	80.0%	2 / 5	40.0%	3 / 5	60.0%
③③	離乳舎 (22-26日齢、接種後0-5日)	10 / 10	100.0%	5 / 10	50.0%	3 / 5	60.0%

殺処分前検査（令和7年2月21日採材）

同居豚		PCR検査 (陽性数/検査数)	陽性率	ELISA検査 (陽性数/検査数)	陽性率	WBC10,000個/μl未満 (陽性数/検査数)	割合
①	隔離導入舎						
②、③	ストール舎 (産歴1-6、接種日不明)	1 / 8	12.5%	6 / 8	75.0%	1 / 8	12.5%
④	古い分娩舎 (産歴2-3、接種日不明)	0 / 2	0.0%	2 / 2	100.0%	1 / 2	50.0%
⑤	交配妊娠舎 (産歴1-5、接種日不明)	0 / 10	0.0%	10 / 10	100.0%	1 / 10	10.0%
⑥	分娩舎 (産歴1-6、接種日不明)	0 / 10	0.0%	10 / 10	100.0%	3 / 10	30.0%
⑦	交配妊娠舎（運動場） (未経産、接種日不明)	0 / 2	0.0%	0 / 2	0.0%	0 / 2	0.0%
⑧	交配ストール（妊娠舎） (産歴0-1、接種日不明)	0 / 3	0.0%	2 / 3	66.7%	0 / 3	0.0%
⑨	交配妊娠舎（種付場） (産歴0、接種日不明)	0 / 5	0.0%	5 / 5	100.0%	0 / 5	0.0%
⑩	分娩舎 (産歴1-7、接種日不明)	0 / 10	0.0%	10 / 10	100.0%	1 / 10	10.0%
⑪	分娩舎 (産歴1-7産、接種日不明)	0 / 10	0.0%	10 / 10	100.0%	1 / 10	10.0%
⑫	肥育舎 (142-158日齢、接種後112-128日)	0 / 10	0.0%	10 / 10	100.0%	0 / 10	0.0%
⑬、⑭	肥育舎 (151-158日齢、接種後121-128日)	0 / 10	0.0%	10 / 10	100.0%	0 / 10	0.0%
⑮	肥育舎 (97-132日齢、接種後67-102日)	5 / 10	50.0%	8 / 10	80.0%	2 / 10	20.0%
⑯	肥育舎 (167-181日齢、接種後92-144日)	0 / 10	0.0%	20 / 20	100.0%	1 / 20	5.0%
⑰	離乳舎 (38-43日齢、接種後8-13日齢)	39 / 45	86.7%	15 / 45	33.3%	25 / 45	55.6%
⑱	肥育舎 (181-199日齢、接種後151-169日)	0 / 10	0.0%	10 / 10	100.0%	0 / 10	0.0%
⑲	肥育舎 (108-211日齢、接種後78-181日)	3 / 10	30.0%	9 / 10	90.0%	0 / 10	0.0%
⑳	肥育舎 (108-115日齢、接種後78-85日)	3 / 10	30.0%	9 / 10	90.0%	0 / 8	0.0%
㉑	候補豚導入舎 (185-221日齢、接種後170-205日)	1 / 10	10.0%	8 / 10	80.0%	0 / 10	0.0%
㉒	新離乳舎 (49-62日齢、接種後19-32日)	33 / 65	50.8%	35 / 65	53.8%	18 / 56	32.1%
㉓	古い離乳舎 (33-69日齢、接種後1-39日)	58 / 70	82.9%	39 / 70	55.7%	28 / 60	46.7%
㉔	肥育舎 (199-202日齢、接種後169-172日)	1 / 10	10.0%	10 / 10	100.0%	0 / 10	0.0%

環境材料	26 / 100	26.0%	※④、⑥、⑮、⑰、⑲、⑳、㉓、㉔で陽性
------	----------	-------	---------------------

環境材料で陽性が確認された豚舎での採材材料（下線は陽性となった材料）

④	分娩舎	長靴、 <u>すのこ</u> 床、親飼槽、子飼槽、子ウォーターカップ
⑥	分娩舎	床すのこ、換気扇、餌箱、通路床、ネズミ糞
⑮	肥育舎	<u>バークリナー</u> 、飼槽、床、扇風機、ネズミ糞
⑰	離乳舎	床、飼槽、ウォーターカップ、通路、長靴
⑲	肥育舎	飼槽、床、窓枠、ウォーターカップ、通路
⑳	肥育舎	換気扇、床、ウォーターカップ、飼槽、通路
㉒	新離乳舎	ファン、給餌器、床、飼槽、長靴
㉓	古い離乳舎	ファン、床、通路、ウォーターカップ、飼槽

ワクチン接種・未接種ごとの検査結果（病性鑑定を含む）

	PCR検査 (陽性数/検査数)	陽性率	ELISA検査 (陽性数/検査数)	陽性率	WBC10,000個/μl未満 (陽性数/検査数)	割合
接種	163 / 350	46.6%	248 / 360	68.9%	88 / 338	26.0%
未接種						

【97 例目】

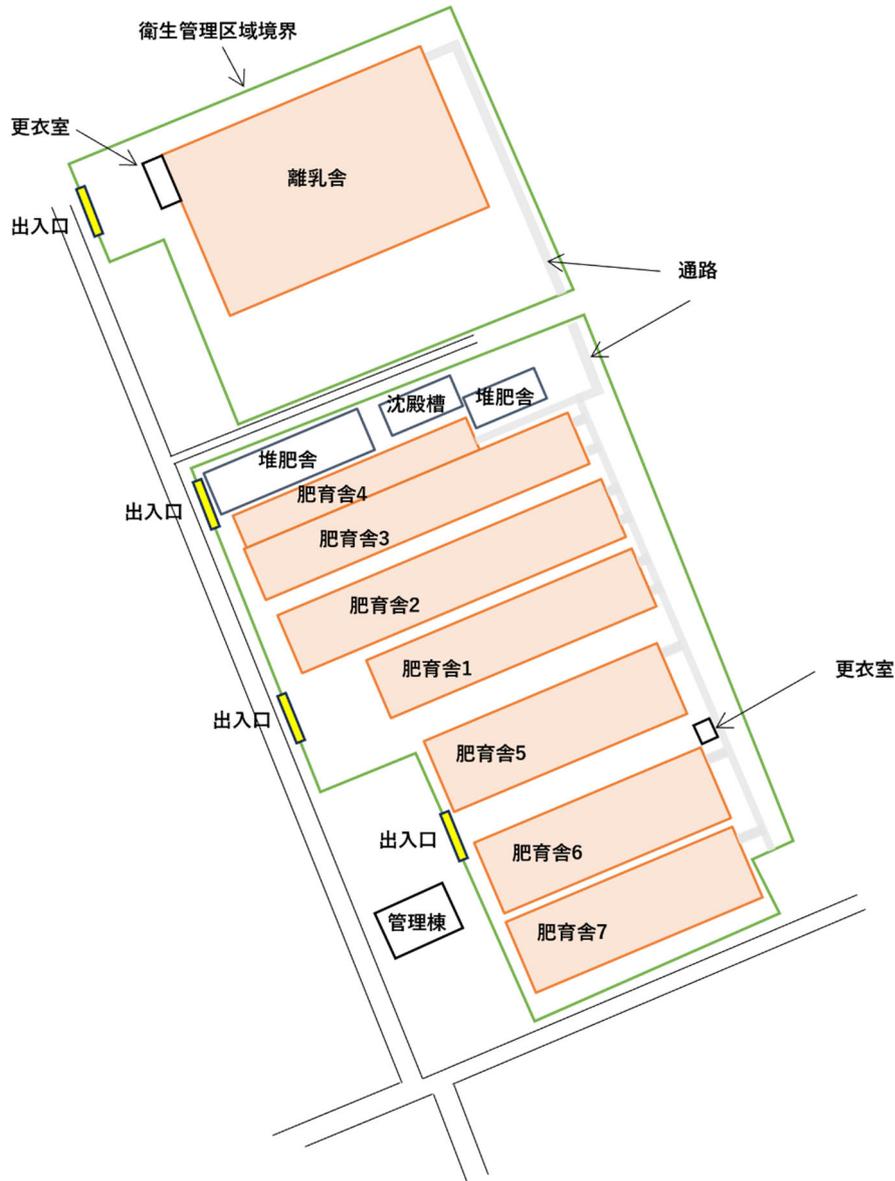
(1) 農場概要

所在地：千葉県旭市

飼養状況：肥育農場（飼養頭数：約 5,500 頭）

発生日：令和 7 年 3 月 31 日

(2) 発生農場見取図



(3) 経緯

令和元年

12月20日 千葉県を豚熱ワクチン接種推奨地域に設定。

当該農場の肥育豚は、茨城県城里町にある系列繁殖農場において14日齢で豚熱ワクチンを接種されていた。

令和7年

3月26日 発生が確認された離乳豚のロットを系列繁殖農場から導入。導入時、受け入れ側の担当者は、これまでのロットと比べ小さい豚が多いと感じたとのこと。また、当該ロットのヒネ豚については、母豚がこれまでとは別の系統を外部から新たに導入したものであり、かつ初産であったことから、授乳管理がうまくできなかったものと考えたとのこと。これらのヒネ豚は、離乳舎の1室内の3つの豚房にまとめて収容した。

繁殖農場からは死亡数が増えている等の報告はなかった。

3月28日 離乳舎の3つの豚房で離乳豚が4頭死亡。

3月30日 離乳豚の3つの豚房で離乳豚が6頭死亡。
管理獣医師が解剖したところ、腎臓及びリンパ節に点状出欠が確認されたため、家保へ通報。

3月31日 農研機構動物衛生研究部門での検査の結果、豚熱の患畜と判定。

4月1日 現地調査時、肥育舎の豚は活力良好であり、豚熱を疑う症状は確認されなかった。

(4) 死亡頭数の推移

	離乳舎A	離乳舎B	離乳舎C	肥育舎1	肥育舎2	肥育舎3	肥育舎4	肥育舎5	肥育舎6	肥育舎7
2月28日	-	0	-	0		1	0	2	0	2
3月1日	-	0	-	0		0	0	0	0	0
3月2日	-	0	-	0		0	0	0	0	0
3月3日	-	0	-	0		1	0	0	2	0
3月4日	-	1	-	0		0	0	1	0	1
3月5日	-	0	1	0		0	0	0	0	0
3月6日	-	0	0	0		5	0	0	0	0
3月7日	-	0	0	0		0	0	0	0	0
3月8日	-	0	0	0		0	0	0	0	0
3月9日	-	0	0	1		3	0	0	0	0
3月10日	-	0	0	0		0	0	0	0	0
3月11日	-	2	0	0		0	0	1	0	1
3月12日	-	4	0	0		0	0	0	0	0
3月13日	-	4	0	0		0	0	1	1	1
3月14日	-	2	0	0		0	0	0	0	0
3月15日	-	5	0	0		0	0	0	0	0
3月16日	-	3	0	0		0	0	0	0	0
3月17日	-	1	0	1		0	1	1	0	1
3月18日	-	3	0	0		0	0	0	0	0
3月19日	-	0	0	0		0	0	0	0	0
3月20日	-	4	0	1		1	0	1	0	1
3月21日	-	2	1	0		0	1	0	0	0
3月22日	-	0	0	0		0	0	0	0	0
3月23日	-	1	0	0		0	0	0	0	0
3月24日	-	0	0	0		0	0	1	0	1
3月25日	-	1	0	0		0	0	1	0	1
3月26日	0	0	1	0		0	0	0	0	0
3月27日	1	0	0	0		0	0	0	0	0
3月28日	4	1	0	0		0	0	0	0	0
3月29日	0	1	1	0		0	0	0	0	0
3月30日	6	0	0	0		0	1	0	0	0
3月31日	3	1	0	0		0	0	2	0	2
合計	14	36	4	3	0	11	3	11	3	11

(5) 検査結果

病性鑑定（令和7年3月30日採材）

同居豚	PCR検査 (陽性数/検査数)	陽性率	ELISA検査 (陽性数/検査数)	陽性率	WBC10,000個/μl未満 (陽性数/検査数)	割合
① 離乳舎A (30日齢、接種後16日)	13 / 13	100.0%	0 / 13	0.0%	0 / 10	0.0%

殺処分前検査（令和7年3月31日採材）

同居豚	PCR検査 (陽性数/検査数)	陽性率	ELISA検査 (陽性数/検査数)	陽性率	WBC10,000個/μl未満 (陽性数/検査数)	割合
① 離乳舎A (30日齢、接種後16日)	5 / 11	45.5%	6 / 11	54.5%	6 / 10	60.0%
② 離乳舎B (72日齢、接種後58日)	0 / 12	0.0%	7 / 12	58.3%	0 / 10	0.0%
③ 離乳舎C (51日齢、接種後37日)	0 / 12	0.0%	9 / 12	75.0%	0 / 10	0.0%
④ 肥育舎1 (92日齢、接種後78日)	0 / 10	0.0%	7 / 10	70.0%	0 / 10	0.0%
⑤ 肥育舎2（空舎）						
⑥ 肥育舎3 (114日齢、接種後100日)	0 / 10	0.0%	7 / 10	70.0%	0 / 10	0.0%
⑦ 肥育舎4 (198日齢、接種後184日)	0 / 10	0.0%	4 / 10	40.0%	0 / 3	0.0%
⑧ 肥育舎5 (177日齢、接種後163日)	0 / 10	0.0%	7 / 10	70.0%	0 / 10	0.0%
⑨ 肥育舎6 (156日齢、接種後142日)	0 / 10	0.0%	7 / 10	70.0%	0 / 8	0.0%
⑩ 肥育舎7 (135日齢、接種後121日)	0 / 10	0.0%	7 / 10	70.0%	0 / 10	0.0%

環境材料	6 / 69	8.7%	①、①～③を繋ぐ通路で陽性（陽性検体は全て殺処分開始後に採材）			
------	--------	------	---------------------------------	--	--	--

環境材料で陽性が確認された豚舎での採材材料（下線は陽性となった材料）

① 離乳舎A	床×2、壁×2、飼槽、換気扇（すべて殺処分作業開始後に採材）
離乳舎	離乳舎ABCの外の通路壁（殺処分作業開始後に採材）

ワクチン接種・未接種ごとの検査結果（病性鑑定を含む）

	PCR検査 (陽性数/検査数)	陽性率	ELISA検査 (陽性数/検査数)	陽性率	WBC10,000個/μl未満 (陽性数/検査数)	割合
接種	18 / 108	16.7%	61 / 108	56.5%	6 / 91	6.6%
未接種						

【98 例目】

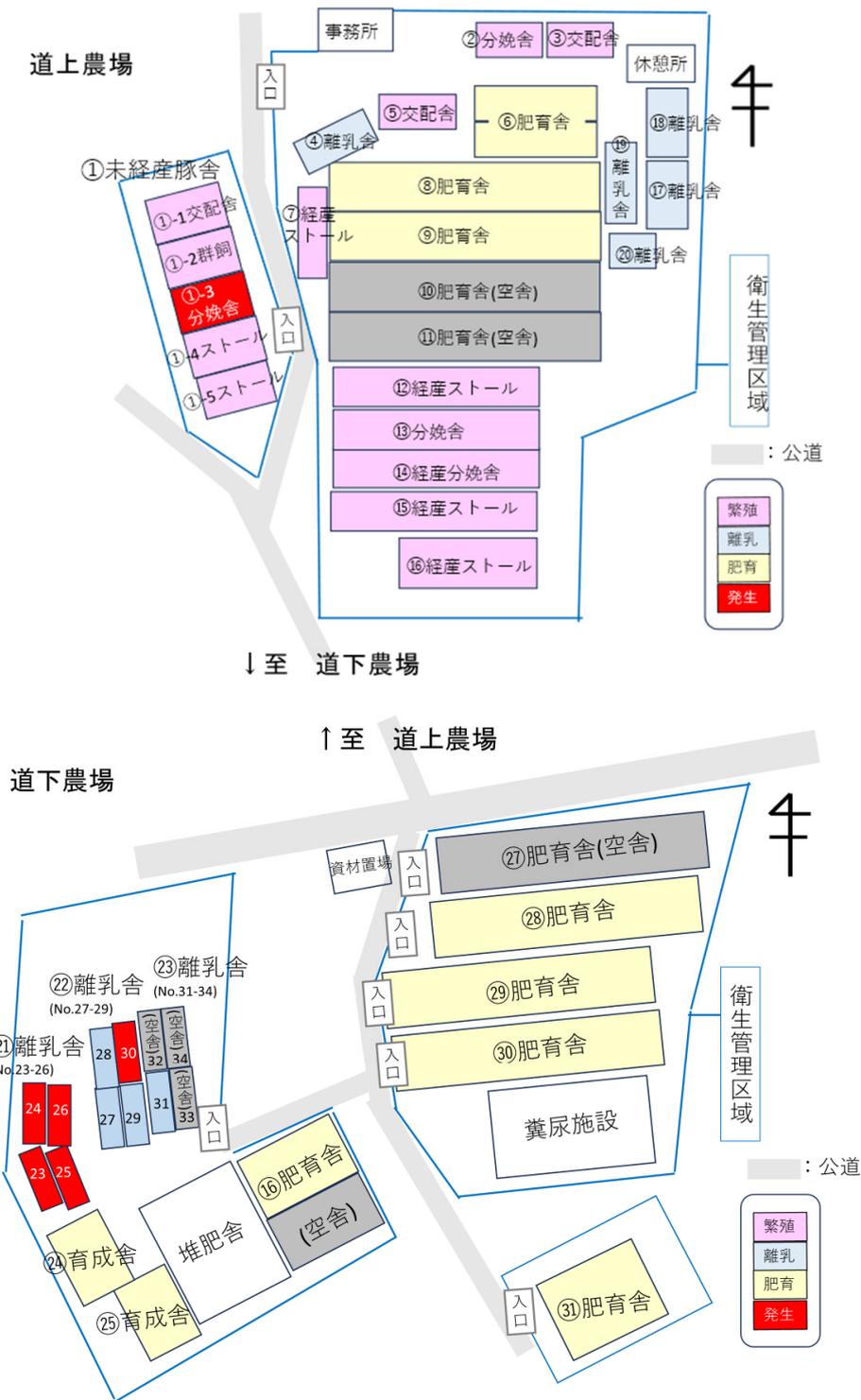
(1) 農場概要

所在地：群馬県前橋市

飼養状況：一貫農場（飼養頭数：約 6,800 頭）

発生日：令和 7 年 4 月 4 日

(2) 発生農場見取図



(3) 経緯

令和元年

10月15日 群馬県を豚熱ワクチン接種推奨地域に設定。
当該農場では、離乳舎において30～37日齢で豚熱ワクチンを接種していた。

令和7年

3月20日 道下農場の①離乳舎（No. 25、26）において管理獣医師が豚熱ワクチン接種。豚舎の使用順の関係で、発生前1か月程度の豚熱ワクチン接種は全て道下農場の離乳舎で行われていた。

3月24日 ①離乳舎（No. 25）で離乳豚が元気消失し、8頭死亡。気温の急上昇に伴う換気不全があり、換気による状況は改善。

3月25日 ①離乳舎（No. 25）と隣接する離乳舎（②離乳舎 No. 23、24）において、元気消失及び下痢を呈する豚が増加。
～26日

3月27日 ②離乳舎（No. 27～29）において管理獣医師が豚熱ワクチン接種。
①離乳舎（No. 23～25）及び②離乳舎の一部の離乳豚において、管理獣医師に状態を診てもらったうえ、従業員がペニシリンを接種。その後、症状が落ち着いたため経過観察。

4月1日 ①離乳舎（No. 25）の離乳豚が飼養されていた道上農場の未経産豚用分娩舎においても、哺乳豚において死亡頭数が増加。

4月3日 ①離乳舎（No. 23、24、25）において元気消失、下痢、食欲不振、チアノーゼ、全身が汚れているといった症状を呈するほか、数頭の死亡が確認されたため、家保に通報。

4月4日 農研機構動物衛生研究部門での検査の結果、豚熱の患畜と判定。

4月5日 現地調査時、道上農場の発生豚舎（分娩舎）では、ほぼ全ての豚房の哺乳豚で死亡、下痢、振戦、目やに、パイルアップが確認された。

(4) 死亡頭数の推移

道上 ①-3分産舎		哺乳豚死亡	
死亡推移	3月7日	1	
	3月8日	3	
	3月9日	1	
	3月10日	2	
	3月11日	0	
	3月12日	2	
	3月13日	1	
	3月14日	3	
	3月15日	1	
	3月16日	2	
	3月17日	0	
	3月18日	1	
	3月19日	2	
	3月20日	1	
	3月21日	0	
	3月22日	2	
	3月23日	3	
	3月24日	2	
	3月25日	0	
	3月26日	1	
	3月27日	3	
	3月28日	2	
	3月29日	3	
	3月30日	1	
	3月31日	2	
	4月1日	4	
	4月2日	8	
	4月3日	15	
	合計	66	
	処分時の状況		
	出生日		
分産舎への導入日 予定日3日前			
分産舎への導入時頭数 月水金に1~3頭くらい(離乳頭数や出産予定日による)			
ワクチン接種日(母豚) 180~190日齢			

道上、離乳舎	21				22				23				計	
	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34		
死亡推移	3月7日						1						1	
	3月8日												0	
	3月9日								1		1		2	
	3月10日												0	
	3月11日												0	
	3月12日												0	
	3月13日												0	
	3月14日												0	
	3月15日												0	
	3月16日												0	
	3月17日								1			1	2	
	3月18日												0	
	3月19日												0	
	3月20日	1	0	0	0								1	
	3月21日	2	0	1	0							1	4	
	3月22日	1	1	2	0					1			5	
	3月23日	0	2	3	0							1	6	
	3月24日	4	2	8	0								14	
	3月25日	2	2	3	0								7	
	3月26日	0	2	3	0	2							7	
	3月27日	1	4	3	0	2							10	
	3月28日	1	1	2	0	1							5	
	3月29日	2	1	2	3	3							11	
	3月30日	5		3	0	2							10	
	3月31日	3	4	3	0	1	1						12	
	4月1日	1	4	5	1	6		2	1				20	
	4月2日	1	0	2	0			2	4				9	
	4月3日	1	2	4	0	2		4	3				16	
	小計	25	25	44	4	19	1	9	8	2	1	1	3	142
	合計	98				37				7				142
	出生日	2/5	2/8	2/11	2/15	2/17	2/21	2/25	2/27	3/1				
離乳舎への導入日	3/14	3/17	3/19	3/21	3/24	3/26	3/28	3/31	4/2					
離乳舎への導入時頭数	88	94	102	102	105	102	103	105	69					
ワクチン接種日	3/13		3/20		3/27			未接種	未接種					

(5) 検査結果

病性鑑定 (令和7年4月3日採材)						ワクチン未接種
同居豚	PCR検査 (陽性数/検査数)	陽性率	ELISA検査 (陽性数/検査数)	陽性率	WBC10,000個/ μ l未満 (陽性数/検査数)	割合
①-3 分娩舎 (25日齢・33日齢、未接種)	8 / 8	100.0%	2 / 8	25.0%	6 / 8	75.0%
①-3 分娩舎 (1産目母豚、接種後168日)	0 / 2	0.0%	2 / 2	100.0%	0 / 2	0.0%
⑳ 離乳舎23~26 (47~57日齢、接種後14~21日)	12 / 16	75.0%	3 / 15	20.0%	2 / 15	13.3%
㉒ 離乳舎30 (35日齢、未接種)	2 / 3	66.7%	3 / 3	100.0%	1 / 3	33.3%

殺処分前検査 (令和7年4月4日採材)						
同居豚	PCR検査 (陽性数/検査数)	陽性率	ELISA検査 (陽性数/検査数)	陽性率	WBC10,000個/ μ l未満 (陽性数/検査数)	割合
①-1 初産交配舎 (母豚、接種後日数不明)	0 / 5	0.0%	4 / 5	80.0%	2 / 5	40.0%
①-2 初産群飼舎 (育成、接種後日数不明)	1 / 5	20.0%	4 / 5	80.0%	2 / 5	40.0%
①-3 初産分娩舎 (母豚、接種後148-169日)	0 / 13	0.0%	13 / 13	100.0%	2 / 11	18.2%
①-4 初産ストール (母豚、接種後日数不明)	1 / 5	20.0%	4 / 5	80.0%	3 / 5	60.0%
①-5 初産ストール (母豚、接種後日数不明)	0 / 5	0.0%	5 / 5	100.0%	4 / 5	80.0%
② 分娩舎 (母豚、接種後328日)	0 / 5	0.0%	5 / 5	100.0%	4 / 5	80.0%
③ 交配舎 (母豚、接種後328日)	0 / 5	0.0%	5 / 5	100.0%	1 / 4	25.0%
④ 離乳舎 (61-64日齢、接種後29日)	0 / 5	0.0%	2 / 5	40.0%	0 / 5	0.0%
⑤ 交配舎 (母豚、接種後328日)	0 / 5	0.0%	5 / 5	100.0%	0 / 4	0.0%
⑥ 肥育舎 (120-130日齢、接種後78日)	0 / 5	0.0%	3 / 5	60.0%	2 / 5	40.0%
⑦ 経産ストール (母豚、接種後328日)	0 / 5	0.0%	5 / 5	100.0%	0 / 5	0.0%
⑧ 肥育舎 (150-170日齢、接種後127日)	0 / 5	0.0%	5 / 5	100.0%	0 / 5	0.0%
⑨ 肥育舎 (130-150日齢、接種後106日)	0 / 5	0.0%	2 / 5	40.0%	0 / 5	0.0%
⑩ 肥育舎 (空舎)						
⑪ 肥育舎 (空舎)						
⑫ 経産ストール・雄舎 (母豚、接種後328日)	0 / 5	0.0%	4 / 5	80.0%	3 / 5	60.0%
⑬ 経産分娩舎 (母豚、接種後328日)	0 / 5	0.0%	5 / 5	100.0%	1 / 5	20.0%
⑭ 経産分娩舎 (母豚、接種後不明)	0 / 5	0.0%	3 / 5	60.0%	1 / 5	20.0%
⑮ 経産ストール・雄舎 (母豚の接種後不明・経産母豚は接種後328日)	0 / 5	0.0%	5 / 5	100.0%	0 / 5	0.0%
⑯ 経産ストール (母豚、接種後日数不明)	0 / 5	0.0%	5 / 5	100.0%	0 / 5	0.0%
⑰ 離乳舎 (76-80日齢、接種後50日)	0 / 5	0.0%	4 / 5	80.0%	0 / 5	0.0%
⑱ 離乳舎 (68-74日齢、接種後36-43日)	0 / 5	0.0%	4 / 5	80.0%	0 / 5	0.0%
⑲ 離乳舎 (45-75日齢、接種後8-43日)	0 / 5	0.0%	2 / 5	40.0%	0 / 5	0.0%
⑳ 離乳舎 (60日齢、接種後22日)	1 / 5	20.0%	2 / 5	40.0%	1 / 5	20.0%
㉑ 離乳舎 (47-57日齢、接種後15-22日)	9 / 20	45.0%	12 / 20	60.0%	3 / 18	16.7%
㉒ 離乳舎 (35日齢、未接種)	5 / 5	100.0%	1 / 5	20.0%	5 / 5	100.0%
㉓ 離乳舎 (37-45日齢、接種後8日)	15 / 15	100.0%	1 / 15	6.7%	6 / 15	40.0%
㉔ 離乳舎 (33日齢、未接種)	3 / 5	60.0%	2 / 5	40.0%	3 / 4	75.0%
㉕ 育成舎 (88-134日齢、接種後99日)	1 / 5	20.0%	5 / 5	100.0%	0 / 5	0.0%
㉖ 育成舎 (133-231日齢、接種後90-190日)	0 / 5	0.0%	5 / 5	100.0%	0 / 5	0.0%
㉗ 肥育舎 (ヒネ豚で日数不明、30-37日齢で接種)	0 / 5	0.0%	3 / 5	60.0%	0 / 5	0.0%
㉘ 肥育舎 (空舎)						
㉙ 肥育舎 (167-189日齢、接種後141日)	0 / 5	0.0%	4 / 5	80.0%	0 / 5	0.0%
㉚ 肥育舎 (202-248日齢、接種後197日)	0 / 5	0.0%	3 / 5	60.0%	0 / 5	0.0%
㉛ 肥育舎 (81-107日齢、接種後71日)	0 / 5	0.0%	2 / 5	40.0%	0 / 5	0.0%
㉜ 肥育舎 (186-202日齢、接種後169日)	0 / 5	0.0%	4 / 5	80.0%	0 / 5	0.0%

環境材料	29 / 58	50.0%	①-3、④、⑳、㉑、㉒、㉓の環境サンプルで陽性
------	----------------	-------	-------------------------

環境材料で陽性が確認された豚舎での採材材料（下線は陽性となった材料）

①-3	分娩舎	飼槽、ネズミの糞、ピッカー、換気扇、餌、柵、餌パイプ、ドア、床、給餌器
④	肥育舎	蛍光灯
⑳	離乳舎	通気口
㉑	離乳舎	床、ピッカー、柵、ドアノブ、換気口、壁、入り口板、スイッチ
㉒	離乳舎	ピッカー、壁、飼槽、蛍光灯、餌タンク、換気扇、ヒーター、餌パイプ
㉓	離乳舎	床

ワクチン接種・未接種ごとの検査結果（病性鑑定を含む）

	PCR検査 (陽性数/検査数)	陽性率	ELISA検査 (陽性数/検査数)	陽性率	WBC10,000個/ μ l未満 (陽性数/検査数)	割合
接種	40 / 206	19.4%	140 / 205	68.3%	37 / 199	18.6%
未接種	18 / 21	85.7%	8 / 21	38.1%	15 / 20	75.0%

【99 例目】

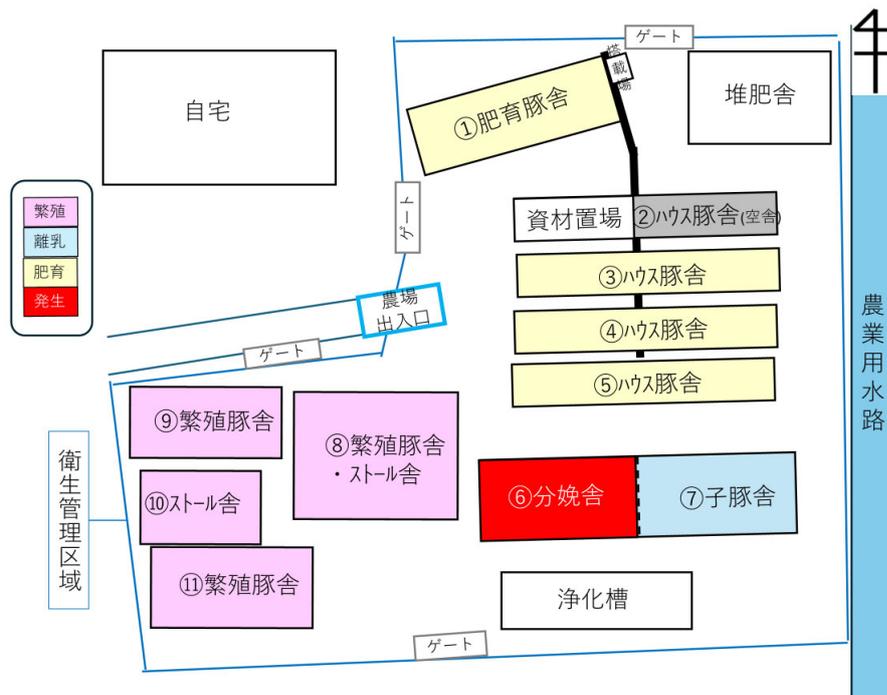
(1) 農場概要

所在地：群馬県前橋市

飼養状況：一貫農場（飼養頭数：約 460 頭）

発生日：令和 7 年 5 月 9 日

(2) 発生農場見取図



(3) 経緯

令和元年

- 10月15日 群馬県を豚熱ワクチン接種推奨地域に設定。
当該農場では、30日齢前後で豚熱ワクチンを接種していた。

令和 7 年

- 4月下旬 一腹当たりの離乳豚（4月初旬生まれ）の死亡数が増加していたが、哺乳豚等の他の飼養豚では異状が見られなかった。
- 5月1日 離乳豚の死亡数が更に増加し、元気喪失、食欲不振が見られたが、やはり哺乳豚等には異状は見られなかった。離乳豚の死亡が増加した腹の母豚に産歴の偏りはなかった。
- 5月7日 7分娩房のうち、1分娩房の離乳子豚が全頭死亡。
- 5月8日 さらに1分娩房の離乳子豚が全頭死亡となったため、通報。
- 5月9日 農研機構動物衛生研究部門での検査の結果、豚熱の患畜と判定。
- 5月10日 現地調査時、肥育豚の異状は見られなかったが、母豚及び雄豚には消瘦が見られた。

(4) 死亡頭数の推移

豚房番号	左1(①)	右2(②)	右3(③)	右4(④)	右5(⑤)	右6(⑥)	右7(⑦)	
死亡推移	4月11日	1					1	
	4月12日		1					
	4月13日						2	
	4月14日				1			
	4月15日					1		
	4月16日	1						
	4月17日			1				
	4月18日							
	4月19日							
	4月20日						1	
	4月21日				1			
	4月22日		1					
	4月23日							
	4月24日			1				
	4月25日			1				
	4月26日			1				
	4月27日							
	4月28日						1	
	4月29日			1				
	4月30日							
	5月1日		1				1	
	5月2日			1	2		2	
	5月3日		2		1		2	
	5月4日		2		2		1	
	5月5日	1		1			2	
	5月6日			1			1	
	5月7日				1			
	5月8日	1	1					
	合計	4	8	7	8	0	5	14
	立入時の状況 (生存頭数)	1	0	3	0	9	2	4
出生日	3月22日	3月25日	4月6日	4月12日	4月12日	4月12日	4月11日	
離乳日	4月16日	4月18日	4月30日	5月7日	5月7日	5月7日	5月4日	
離乳時生存頭数	7	7	6	9	9	2	7	
ワクチン接種日	未接種	未接種	未接種	未接種	未接種	未接種	未接種	

(5) 検査結果

【99例目】検査結果

病性鑑定（令和7年5月8日採材）

ワクチン未接種

同居豚	PCR検査 (陽性数/検査数)	陽性率	ELISA検査 (陽性数/検査数)	陽性率	WBC10,000個/μl未満 (陽性数/検査数)	割合
⑥ 分娩舎 (26-47日齢、未接種)	9 / 12	75.0%	1 / 11	9.1%	7 / 11	63.6%

殺処分前検査（令和7年5月9日採材）

同居豚	PCR検査 (陽性数/検査数)	陽性率	ELISA検査 (陽性数/検査数)	陽性率	WBC10,000個/μl未満 (陽性数/検査数)	割合
① 肥育舎 (180-185日齢、接種後150-155日)	0 / 5	0.0%	5 / 5	100.0%	0 / 5	0.0%
② ハウス豚舎（空舎）						
③ ハウス豚舎（肥育） (83-100日齢、接種後53-70日)	0 / 5	0.0%	5 / 5	100.0%	1 / 4	25.0%
④ ハウス豚舎（肥育） (100-167日齢、接種後70-127日)	1 / 10	10.0%	10 / 10	100.0%	0 / 10	0.0%
⑤ ハウス豚舎（肥育） (77-153日齢、接種後47-123日)	0 / 10	0.0%	9 / 10	90.0%	0 / 10	0.0%
⑥ 分娩舎 (産後1-8、接種後41日)	0 / 11	0.0%	11 / 11	100.0%	0 / 11	0.0%
⑥ 分娩舎 (0-33日齢)	16 / 44	36.4%	34 / 44	77.3%	22 / 43	51.2%
⑦ 子豚舎 (53-100日齢、接種後35-70日)	7 / 24	29.2%	21 / 24	87.5%	0 / 19	0.0%
⑧ 繁殖豚舎・ストール舎 (母豚、接種後41日)	0 / 11	0.0%	11 / 11	100.0%	2 / 10	20.0%
⑨ 繁殖豚舎 (産後0-9、接種後41日)	0 / 9	0.0%	9 / 9	100.0%	0 / 9	0.0%
⑩ ストール舎 (産後2-11、接種後41日)	0 / 10	0.0%	10 / 10	100.0%	2 / 10	20.0%
⑪ 繁殖豚舎 (産後0-6、接種後41日)	0 / 6	0.0%	5 / 6	83.3%	0 / 6	0.0%

※⑥と⑦は1棟の豚舎内で分かれています。

環境材料	12 / 55	21.8%	⑥、⑦、⑧、⑨、⑪の環境サンプルで陽性
------	---------	-------	---------------------

環境材料で陽性が確認された豚舎での採材材料（下線は陽性となった材料）

⑥ 分娩舎	通路床、防鳥ネット、保温箱、長靴、餌箱
⑦ 子豚舎	換気扇、サッシのレール、給水器、通路床、テnder
⑧ 繁殖豚舎・ストール舎	入口床、奥の床、飼槽、窓枠、長靴底
⑨ 繁殖豚舎	カーテン、換気扇、通路の床、豚房の床、餌取出し口
⑪ 繁殖豚舎	カーテン、豚房壁、排水溝、水飲みピッカー、豚房床

ワクチン接種・未接種ごとの検査結果（病性鑑定を含む）

	PCR検査 (陽性数/検査数)	陽性率	ELISA検査 (陽性数/検査数)	陽性率	WBC10,000個/μl未満 (陽性数/検査数)	割合
接種	8 / 101	7.9%	96 / 101	95.0%	5 / 94	5.3%
未接種	25 / 56	44.6%	35 / 55	63.6%	29 / 54	53.7%

1. ウイルスの侵入要因

(1) 農場間の伝播

令和7年3月に千葉県で発生が確認された97例目農場は、茨城県内の系列繁殖農場から離乳豚を導入しており、導入豚を飼養する離乳豚舎で発生が確認された。殺処分前の検査でも当該離乳豚舎以外では感染は認められなかった。このことから、導入豚が同農場への感染源であった可能性があるが、系列繁殖農場は感染豚の母豚を飼養しており、これらの母豚及びその同居豚は防疫指針上の疑似患畜として殺処分の対象となった。また、当該繁殖農場は、農場所有者の判断により、疑似患畜とならなかった飼養豚についても自主淘汰又は移動制限解除後にと畜場に出荷することとした。なお、家畜保健衛生所の立入り調査時、飼養豚に臨床的に異状は認められなかったため、当該繁殖農場の飼養豚を対象とした豚熱の検査は行われなかったことから、当該農場の感染の有無は不明となっている。このため、茨城県の当該繁殖農場の周辺で摘発された感染野生イノシシ由来の豚熱ウイルスについて全ゲノム解析を行い、97例目の発生農場由来の株などと比較した。この結果、当該繁殖農場の周辺で摘発された感染野生イノシシ由来の株が、97例目の発生農場由来の株に極めて近縁であることが判明した。この結果と当該繁殖農場からの導入歴から、当該繁殖農場での感染が先に起こり、97例目の農場は繁殖農場から感染豚を導入したことによって発生した可能性が高いと考えられた。

群馬県で発生した95、96、98および99例目については、全ゲノム情報に基づく系統樹から、96例目は95例目の子孫株に当たり、98、99例目は96例目の子孫株に当たるとの解析結果が得られた。これらの4事例はおよそ半径6km程度の地域に所在していること、各事例が1か月程度の間隔で起こったことから、これらの事例が農場間の伝播によって起こった可能性が疑われた。しかしながら、

- ① これらの農場の発生後に行われた疫学調査の結果、これらの農場間での飼養豚や飼養管理者の移動、車両や重機の共有などの疫学的な関連性は認められていないこと、
- ② 全ゲノム解析の結果、これらの農場に由来するウイルス間には一定の変異が認められ、農場への感染が直接他の感染農場から起こったとは考えにくいこと、
- ③ これらの農場が所在する地域の周辺では感染野生イノシシの摘発が少なく、全ゲノム情報が得られた事例もない一方で、この地域ではイノシシの生息自体は認められており、農場から少し離れた地域では感染イノシシのも認められていることから、これらの農場周辺の野生イノシシに、これらの農場の感染源となったウイルスによる感染が起こっていたことが否定できないこと

から、現時点ではこれらの感染が農場間伝播によるものと考え難く、引き続き、当該地域で摘発された感染野生イノシシ由来のウイルスの全ゲノム解析を進める必要があると考えられた。

(2) 農場周辺の野生イノシシからの感染

発生農場と感染野生イノシシに由来するウイルスの全ゲノム情報を比較したところ、93例目（新潟県）と94例目（愛媛県）については、これら農場由来のウイルスに近縁なウイルスがこれらの農場の周辺のイノシシからそれぞれ検出されており、これらの事例は、農場周辺の野生イノシシ由来のウイルスが何らかの要因で農場内に侵入したと考え

られる。一方で、94 例目の愛媛県の事例に近縁のウイルスは愛媛県や高知県の感染野生イノシシから確認されているが、このウイルスは徳島県や香川県から侵入したものではなく、京都府や兵庫県の一部に由来することが示されている。これまでの流行でも認められているように、こうした長距離の伝播は野生イノシシ間の感染拡大ではなく人や車両の移動といった人為的要因によって起こったと考えられ、改めてこうした感染拡大を防ぐ必要性が示されたといえる。なお、新潟県で発生した 93 例目の周辺で認められた感染イノシシ由来のウイルスは群馬県や埼玉県の一部で認められ、これも長距離伝播の結果である可能性があるが、両地域間の地域では野生イノシシ由来のウイルスの全ゲノム解析が進んでいないことから引き続き検査を進める必要がある。

2. ウイルスの侵入時期

千葉県 97 例目の事例（令和 7 年 3 月 31 日発生）については、1 の（1）に記載したとおり、系列農場から導入された離乳豚により発生した可能性が高いと考えられ、肥育舎での感染は認められていないことから、感染源となったのは発生の直前の 3 月 26 日に約 30 日齢で導入された離乳豚であると考えられる。また、感染源となった茨城県の繁殖農場からは、97 例目農場だけにおよそ 20 日間隔で離乳豚が出荷されていたことから、3 月 25 日以前に出荷された離乳豚が感染していた可能性は低く、発生のあった離乳豚の日齢を考慮すると当該繁殖農場の感染は 2 月末以降に起こったものと推定される。

93 例目（新潟県）、95、96、98、99 例目（いずれも群馬県）については、主に離乳豚までに感染が認められていることから、これらの農場での感染は哺乳豚や離乳豚で起こり、感染豚は肥育豚舎までは及んでいなかった可能性が高いと考えられた。したがって、離乳豚舎から肥育豚舎へ移動する日齢を考慮すると、農場へのウイルスの侵入は通報のおよそ 2 か月前以降に起こった可能性が高いと考えられた。

94 例目については、農場の飼養規模が小さく、離乳豚から肥育豚までが同一の豚舎で飼育されていたことから、ピッグフローに基づくウイルスの侵入時期の推定は困難と考えられた。